

部署連携による講習会実施効果の検証

- 「企業研究・業界研究のためのデータベース講習会」を通して-

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 明治大学図書館 公開日: 2022-05-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 浅野, 京子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/22434

部署連携による講習会実施効果の検証

—「企業研究・業界研究のためのデータベース講習会」を通して—

浅野 京子*

はじめに

2020年春、明治大学図書館が契約する外部データベースの利用が急増した。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴うキャンパス内への入構制限、図書館の臨時休館やオンライン授業が開始されたことにより、自宅から使えるオンライン資料へのニーズが高まったことが、大きな要因の一つであったろう。主に学習目的で利用されるデータベースのほとんどは、契約によって同時接続数が制限されており、その上限に達したためにログイン出来ない学生も多かったようである。各図書館には例年以上の問い合わせが寄せられ、twitterではデータベースにログイン出来ないことが、複数の本学学生によってつぶやかれていた。さらに、就職キャリア支援センター（以下、キャリアセンター）からは、就職活動によく使われるデータベースの同時接続数を増やして欲しい、現状の契約数では就活生に積極的に案内が出来ないと要望があった。この状況を受け、2020年度秋学期以降、学習用データベースの同時接続数を一時的に増やす対応を行った。

図書館では、コロナ禍でも教育・研究支援が途絶えないよう様々な新し

*あさの・きょうこ／明治大学 学術・社会連携部 図書館総務事務室

いサービスを検討してきたが¹、電子資料契約担当である筆者は、来館による図書館利用が制限される中でも自宅から使えるオンライン情報源があることを、多くの学生に知ってもらう方法を模索していた。対面授業がなくなり友人に会えない、独りぼっちでオンライン授業や多くの課題に取り組む学生に、何か前向きな情報発信をしたかったのである。

特に普段あまり図書館を利用しない学生に、データベースの存在を知ってもらうことを主な目的として、集客力のあるキャリアセンターと協働するという考えに至った。本学は「就職の明治」と言われることもあり、2020年度、「就職に力を入れている大学」ランキングで11年連続全国1位の評価を得ている²。キャリアセンター発信のイベントであれば多くの学生に興味を持ってもらえるだろうと考えた。

1 実施内容

本学の活動制限指針により対面イベントの実施が制限されていたことから、オンラインでデータベース講習会を実施することとした。就活生の多くが所属する駿河台キャンパスの部署同士で企画・運営し、対象は全キャンパス所属学生とした。紹介するデータベースは、就職活動によく利用され、学部学生にも馴染みやすい「日経テレコン21」と「日経バリューサーチ」に絞った。またキャリアセンターの経験から、昼休みと5限以降はイベント参加者が比較的多く集まる傾向にあるということが分かり、昼休みの50分間に設定した。短時間であれば気軽に参加してもらえるということも意識した。

従来のデータベース講習会は、説明を聞きながら端末を操作する実習形式が多かったが、今回はオンライン配信であり参加者が同時に端末操作するのは環境上難しいことから、説明を中心にした。内容は3部構成で、冒頭にキャリアセンター職員から、企業研究や業界研究の必要性について

¹ 詳細は「明治大学図書館年次報告書 2020年度」参照

² 大学通信社「就職に力を入れている大学ランキング 2020（全国編）」<https://univ-online.com/article/career/15580/>（2021.12.21 アクセス）

事例を交えてニーズ喚起を行った。続いて、データベースの主要な使い方について、提供元から講師を招いて30分程度解説してもらった。最後に質疑応答の時間を設けた。質問は、参加者が講習会中に自由に投稿でき、他の人の質問が気になったら「いいね」ボタンを押せるZoomのQ&A機能を使った。また、後日キャリアセンターのポータルサービス「M-Career」と図書館ホームページで、動画と資料を一定期間公開した（共に学内者限定公開）。

広報には大学のポータルサービス「Oh-ol!Meiji」を使い、キャリアセンターから配信した。その他、M-Career、「MEIJI NOW」³、図書館ホームページ、デジタルサイネージ等の館内掲示、図書館公式twitter⁴でも情報発信した。次項で触れるが、参加者のほとんどはキャリアセンター発信の情報を見て参加しており、図書館による広報を受けて参加した学生はほとんどいなかった。

第1回目である2020年10月30日の前日に、本学への爆破予告が届き、当日構内に入れなくなるというトラブルもあったが、完全オンラインの企画であったため、中止することなく当初の計画通り実施することが出来た。

2021年度は、新規に導入したデータベース「東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー」を加えて、学期あたり3回、計6回の講習会を開催した。配信にはキャリアセンターが契約するZoomウェビナーを使用していたが、学生の就職活動への関心が高い時期は他の行事で昼休みがほとんど埋まってしまうため、約3ヶ月前からスケジュール調整を行った。

さらに、講習会の説明を聞いただけではまだ操作に自信が持てない学生を対象に、フォローアップ講座も企画した。これは検索演習課題を提示して学生が実際にデータベース操作をし、グループに分かれて検索結果を発表、最後に図書館もしくはキャリアセンターの職員がフィードバックを行う、という内容のものであった。大人数向け一方向型の講習会とは違い、「手取り足取り」操作方法を習得してもらうことを目的としていたため、1回あたりの定員を30名に絞って、2021年度春学期に2回実施した。

³ 明大生のための情報サイト <https://meijinow.jp/study/event>

⁴ 明治大学図書館公式 twitter アカウント https://twitter.com/meiji_lib

図：講習会ポスター（左から、2020年度秋学期、2021年度春学期、2021年度秋学期）



2 参加者数とアンケート結果

2020年度は2回開催して延べ450名、2021年度は6回開催して延べ1,672名の参加があった。2021年春学期の第3回目(日経バリューサーチ)は、キャリアセンターが春学期に開催した全てのオンラインイベントの中で、2番目に参加者数が多かったとのことだった。

表1：「企業研究・業界研究のためのデータベース講習会」参加者数と満足度

期間	実施日*1	データベース名	参加者数	満足度*2
2020年度 秋学期	10月30日(金)	①日経テレコン	263名	88%
	12月8日(火)	②日経VS*3	187名	93%
2021年度 春学期	5月26日(水)	①日経テレコン	400名	92%
	5月31日(月)	②東洋経済DCL*4	182名	95%
	6月3日(木)	③日経VS	445名	98%
2021年度 秋学期	9月27日(月)	①日経テレコン	276名	93%
	9月29日(水)	②日経VS	199名	98%
	10月1日(金)	③東洋経済DCL	170名	96%

*1 開催時間は全て12:35~13:25

*2 満足度は、事後アンケートで「満足」「やや満足」と回答した参加者の割合

*3 日経バリューサーチ

*4 東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー

また、表2のとおり参加者の多くがキャリアセンターから発信した情報を見て講習会のことを知ったようで、図書館がこれまで主に使用してきた広報ツールであるホームページのお知らせ、館内掲示、公式 twitter を見て参加したと答えた人数は、8回分のアンケート結果を足し合わせても、わずか一桁であった。

表2：事後アンケート設問「本日のセミナーをどこで知りましたか」に対する回答

選択肢	回答数（計）*5
Oh-olMeijiのお知らせ	784
M-Careerのイベントカレンダー	140
就職キャリアセンターの行事一覧	67
友人から	9
図書館ホームページ	3
図書館ポスター	3
図書館 twitter	3

*5 講習会全8回分の回答数の合計。複数回答可。

3 検証

ここでキャリアセンターと連携したことで得られた成果について、検証したい。

(1) 広報／集客

Oh-olMeijiは全学的に使用するもので、所属学部や学生支援等、学内各部署から、毎日多くのお知らせが学生の元に届く。シンプルな件名で発信すると読み飛ばされてしまうことがほとんどだろう。キャリアセンターでは、件名の付け方にも工夫を凝らしており、その知恵を学ぶことが出来た。今回付けられた件名の一例をここに挙げたい。

「～ライバルと差がつく企業研究をするためには?～

【9/27（月）12:35～】就活のためのデータベース講習会（日経テレコン）」

また、図書館のお知らせに反応する学生と、キャリアセンターのお知らせに反応する学生はそれぞれ異なる。就職活動は多くの学生が通る道であることから、後者に反応する数の方が圧倒的に多いだろう。キャリアセンターから講習会のお知らせを掲出したことで、当初の目的でもあった、普段あまり図書館を利用しない学生＝図書館が単独で開催する講習会の参加者とは違う学生層にまで、情報を届けることが出来たのではないだろうか。もちろん、コロナ禍でオンラインツールが充実し、キャンパスを超えて実施出来たことも、参加者増に大きく起因したと考えられる。

(2) 満足度

学生のアンケート結果や視聴した図書館職員のコメントから、使い方の説明のみに留まらず、冒頭でなぜデータベースを使って企業・業界研究をした方が良いのかを伝えたことが効果的であったと感じている。キャリアセンターには多くの就活成功事例と失敗事例が蓄積されている。特に失敗事例を用いたいわゆる「お説教」は、視聴する就活生にとって、この講習会を自分事として捉える大きなきっかけになったのではないだろうか。またアンケートでは、「データベースの存在を知ることが出来て良かった」、「どのように業界研究をすれば良いか分からず困っていた」などといったコメントが多く寄せられ、まずはデータベースの存在を知ってもらう、という目的は概ね達成出来たのではないだろうか。

(3) 職員の理解度向上

キャリアセンターでは各キャンパスの相談員が、日々学生の個別相談の対応をしている。講習会を共催したことで、相談員の多くが興味を持って視聴してくれた。データベースの使い方と利便性が理解でき、就活に“つかえる”ツールである、個別相談で案内したいとの声が聞かれた。キャリアセンターの相談員を通じて学生にデータベースの存在を知ってもらうのは、数百人規模の講習会を行うよりも効果が大きいと感じている。

4 課題

図書館における学生向けのイベントや講習会は必須業務ではなく、その活性化は担当職員に左右されることもある。これまで他部署と連携して開催してきた行事や学生に好評の企画も、人事異動によりリセットされてしまうことも考えられる。本当に必要なイベントは定型業務化するなど、安定した学習支援を行っていききたい。

また、1項で触れたフォローアップ講座には課題が残った。実習形式の講座をオンラインで行うと、操作中のつまずきを発見するのが困難であるということが分かった。Zoomを繋いだまま無言で各々が検索している時間が長くなり、その間に退出してしまう学生もいた。さらにアウトプットも就職活動準備のうちと、発表の時間を設けたが、聞いているだけの講習会だと思って参加した学生もいたのか、そのことを案内すると数名が退出してしまった。オンライン形式の場合、発言の機会があるか無いかによって視聴する場所を選ばないといけない。双方向の講座であることが間違いなく伝わるよう、広報に工夫する必要がある。最後まで残った参加者からは直接アドバイスを受けられて満足した等、前向きなコメントが多かったが、やはり実習形式の場合は対面の方がやり易く、オンラインで実施する場合にはそのやり方を十分検討する必要がある。

5 今後の展望

コロナ禍でも安心して使える図書館サービスを学生に知って欲しい、という思いを出発点として部署連携による企画を遂行し、今回その効果を確認することが出来た。副次的には他部署と連携することで、自身の担当業務を違った角度から見ることができ新たな発見もあった。図書館が提供する資料やサービスをより広く学習・研究に活かすため、今後はキャリアセンターだけでなく、学内様々な部署と連携した企画を考えていきたい。